

海洋資源・産業ラウンドテーブル
2019年度第1回通常理事会／通常総会

議案1号：平成30年度事業報告および決算報告
ならびに監査報告(案)に関する件

I. 事業報告(案)

1. 会議の開催

(1) 総会・理事会

今期は2年に一度の役員改選期にあたるので、その関係の議案を審議し、総会開催時に、正副会長互選のための第2回理事会も開催した。

年 月 日	内 容
2018年7月6日(金) (15:00～16:00) (於：霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館(霞山の間および牡丹の間))	<p>第1回通常理事会 議題：1. 議案1号：平成29年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件 2. 議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件 3. 議案3号：役員を選任に関する件 4. 議案4号：新規入会会員の承認に関する件 5. その他</p> <p>第1回通常総会 議題：1. 議案1号：平成29年度事業報告および決算報告ならびに監査報告に関する件 2. 議案2号：平成30年度事業計画および収支予算案の承認に関する件 3. 議案3号：役員の承認に関する件 4. 議案4号：新規入会会員の承認に関する件 5. その他</p> <p>第2回通常理事会 議題：1. 議案1号：会長・副会長の互選に関する件</p>

(2) 幹事会

本会の円滑な運營業務のため、幹事会をメール審議も含めて下記のように開催した。

年 月 日	内 容
2018年6月4日(月) (16:00～17:30) (於：(一社)海洋産業)	<p>第1回幹事会 議題：1. 平成30年度第1回及び第2回通常理事会／第1回通常総会、全体会合、懇親会について</p>

年 月 日	内 容
研究会)	(1)平成30年度第1回及び第2回通常理事会／第1回通常総会、懇親会の全体概要 (2)平成30年度第1回及び第2回通常理事会／第1回通常総会の議案(案) 2.平成30年度の年間活動の検討 (1)主な活動内容について (2)その他 3.その他
2018年11月13日(火) (メール審議)	第2回幹事会 議題：1.第20回全体会合の開催要領案について(ご相談) 2.第20回全体会合の開催日程について(ご相談) 3.幹事交代について(ご報告)
2019年3月29日(金) (16:00～17:30) (於：(一社)海洋産業研究会)	第3回幹事会 議題：1.2018年度事業報告(案)および決算見込について 2.2019年度事業計画(案)および収支予算(案)について 3.海洋資源・産業ラウンドテーブル設立10周年記念式典(案)について 4.その他

2. 全体会合等の開催

(1) 全体会合・懇親会

今期は、理事会・総会開催時を含めて下記のように開催した。

年 月 日	内 容
2018年7月6日(金) (16:15～17:15) (於：霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館・霞山の間)	第19回海洋資源・産業ラウンドテーブル全体会合 (理事会・総会終了後に開催。参加者数：約130名) 内容：以下のとおり 1)「海底熱水鉱床の音波探査技術について」 ・・・株式会社地球科学総合研究所 研究開発部長 浅川 栄一氏 2)「自律歩行型海底採掘およびサンプリングシステムのスケールモデル試験について」 ・・・東海大学海洋学部 客員教授 渡辺 喜保氏 3)「海洋鉱物資源開発基礎講座の概要および開催結果について」 ・・・一般財団法人国際資源開発研修センター 事務局長 神門 正雄氏 懇親会 全体会合終了後、開催。参加者数：約120名 来賓：経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課長 大東 道郎氏
2019年2月21日(木) (15:00～18:00)	第20回海洋資源・産業ラウンドテーブル全体会合 (参加者数：約120名)

年 月 日	内 容
(於:霞が関コモンゲート西館 37 階 霞山会館・霞山の間)	<p>内容：以下のとおり</p> <p>1) 「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画の改定及び平成 31 年度関連予算案」 ・ ・ ・ 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部政策課 燃料政策企画室長 向野 陽一郎氏</p> <p>2) 「海底熱水鉱床開発に関する総合評価結果の概要について」 ・ ・ ・ JOGMEC 金属資源技術部海洋資源技術課 課長代理 山路 法宏氏</p> <p>3) 「海底熱水鉱床の資源量調査の状況について」 ・ ・ ・ JOGMEC 金属資源技術部海洋資源調査課 門 泰之氏</p> <p>懇親会 全体会合終了後、開催。参加者数：約 120 名</p>

(2) 特別研究会

今期は、下記のような特別研究会を開催した。

年 月 日	内 容
2018 年 5 月 28 日(月) (13:15~16:45) (於:神戸国際会議場 501 号室)	<p>「ノルウェー・日本 海底資源開発技術に係る情報交換会」 (神戸で開催の OCEANS/Techno-Ocean2018 に合わせて開催)</p> <p>内容：以下のとおり。</p> <p>○話題提供</p> <p>Presentation from Japan (13:20 -14:55)</p> <p>1) Zipangu in the Ocean Program Prof. Tetsuro Urabe, Univ. of Tokyo</p> <p>2) AUV Technologies Prof. Masakazu Arima, Osaka Prefecture Univ.</p> <p>3) AUV Technologies Associate Prof. Toshihiro Maki, Univ. of Tokyo</p> <p>4) Advanced Exploration Technology Dr. Eiichi Asakawa, JGI.Inc</p> <p>5) Environment Issue on DSM Dr. Hiroyuki Yamamoto, JAMSTEC</p> <p>6) Result of Lifting Test of SMS(TBD) Dr. Nobuyuki Okamoto, JOGMEC</p> <p>Break (14:55 -15:10)</p> <p>Presentation from Norway (15:10 -16:45)</p> <p>1) Introduction - Oil and gas technology used in other sectors (spin-off) in Norway Prof. Ingrid Schjølberg, Norwegian University of Science and Technology (NTNU)</p>

	<p>2) Oil and Gas technology in exploration, Prof. Børge Arntzen, Norwegian University of Science and Technology (NTNU)</p> <p>3) Using Norwegian competence from oil and gas sub-sea operations towards the development of ocean mining operations Mr. Yoshinori Miura, Head of Maritime Technology and Research Japan, DNV GL - Maritime</p> <p>4) Estimation of resources Associate Prof. Steinar Ellefmo, Norwegian University of Science and Technology (NTNU)</p> <p>5) Solutions for current monitoring in the deep sea Mr. David Velasco, NORTEK</p> <p>6) Kongsberg AUV Technology in Ocean Resource Exploration Mr. Alex Kern, International Sales Manager, Hydroid, Inc. and Mr. Rich Patterson, General Manager (Seaglider), Kongsberg Underwater Technology Inc.</p> <p>(終了後、Ice-breaker Reception of OTO18 (17:00-19:00)に合流 参加者数：約 24 名)</p>
<p>2018 年 9 月 28 日 (金) (10 : 00～12 : 00) (於：駐日ノルウェー大使館内オーロラ・ホール)</p>	<p>「Equinor 社との情報交換会」(注：Equinor 社は旧 Statoil 社)</p> <p>内容：以下のとおり。</p> <p>○話題提供</p> <p>1) Short presentation on DSM activities of Equinor Ms. Henriette Undrum, VP Research and Technology</p> <p>2) Presentations from Japanese side: - Prof. Yoshiyasu Watanabe, Tokai University - Dr. Hiroyuki Yamamoto, JAMSTEC</p> <p>参加人数：9 名</p>

3. 人材育成・研修事業の実施

今期は、新規事業として（一財）国際資源開発研修センター（JMEC）と共催で下記のような人材育成・研修事業に取り組んだ。

年 月 日	内 容
<p>2018 年 6 月 7 日 (木) ～6 月 13 日 (水)</p>	<p>新規事業：海底鉱物資源開発基礎講座 共催：一般財団法人国際資源開発研修センター（JMEC）</p> <p><座学> ○開催日：6.7 (木)、8 (金)、11 (月) 場 所：JMEC 会議室 (港区赤坂)</p> <p><現地見学> ○開催日：6.12 (火)</p>

年 月 日	内 容
	<p>場 所：東邦亜鉛(株)小名浜製錬所（福島県） ○開催日：6.13（水） 場 所：海洋調査船「白嶺」（千葉県王子物流(株)） 参加人数：12名</p> <p>内容：以下のとおり。</p> <p>○座学</p> <p>6月7日（木）</p> <p>1 イントロダクション-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次世代海洋資源調査システムの開発」プロジェクト 浦辺徹郎（JMEC 顧問・東京大学名誉教授） ・海底熱水鉱床の地質・鉱床 浦辺徹郎（同上） <p>2 開発と環境保全、製錬リサイクル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底鉱物資源の開発と環境保全 福島朋彦（JAMSTEC 海底資源研究開発センター環境影響評価研究グループリーダー） ・海底熱水鉱床の製錬技術（不純物除去と取り扱い技術） 中村崇（東北大学名誉教授） <p>6月8日（金）</p> <p>3 イントロダクション-2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底鉱物資源を巡る国際状況と国際海底機構（ISA） 岡本信行（ISA 法律・技術委員会） ・JOGMEC の活動状況（熱水鉱床、コバルトリッチクラスト等） 栗原政臣（JOGMEC 金属資源技術部海洋資源調査課長） <p>(探査技術)</p> <p>4 探査技術（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底熱水鉱床の探査技術（音波探査を中心とした統合的調査） 浅川栄一（J-MARES 技術部長・(株)地球科学総合研究所研究開発部長） ・海底熱水鉱床の探査技術（電気探査を中心とした統合的調査） 原田陽夫（海洋調査協会 SIP 推進室・三井金属資源開発(株)常務取締役） <p>6月11日（月）</p> <p>5 開発・採鉱技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底熱水鉱床の採鉱・揚鉱技術 山富二郎（東京大学名誉教授） <p>6 選鉱技術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底熱水鉱床の選鉱技術 孫田裕美（ジオテクノス(株)技師長） <p>7 資源経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底鉱物資源開発の事業展望—陸上資源と比較して— 秋山義夫（JOGMEC 金属資源技術部主席研究員） <p>8 まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海底鉱物資源開発政策（資源需給、海洋資源開発を巡る法制度、最近の動向と施策等） 前場卓也（経済産業省鉱物資源課課長補佐）

年 月 日	内 容
	○サイト見学ツアー 6月12日(火) 東邦亜鉛(株)小名浜製錬所(福島県) 6月13日(水) JOGMEC 海洋資源調査船「白嶺」(千葉県)

4. 見学会等の実施

今期は、JAMSTECの「ちきゅう」の見学会を静岡県清水にて開催した。

年 月 日	内 容
2018年10月2日(火)	第18回見学会 (MTS 日本支部の見学グループとの合同見学会) 地球深部探査船「ちきゅう」見学会 場所：静岡県 清水港 興津第2埠頭 参加人数：7 会員、9 名

5. 情報受発信事業の実施

(1) ホームページ/会員専用ページの更新

年 月 日	内 容
2018年10月12日(金)	・平成30年度「今後の活動に関する会員アンケートの実施」を会員向けに公開
2018年10月26日(金)	・平成30年5月28日(月)に開催した「ノルウェー・日本 海底資源開発技術に係る情報交換会」の様子を会員向けに公開
2018年11月9日(金)	・平成30年7月6日(金)に実施した「第19回全体会合」の資料や様子を会員向けに公開
2018年11月13日(火)	・平成30年7月6日(金)に実施した平成30年度の理事会・総会・懇親会資料を公開
2018年11月27日(火)	・平成30年9月10日(月)にノルウェー科学技術大学で実施した「技術情報交換会」の詳細、および9月11日(火)-13日(木)にノルウェー・ベルゲンにて視察した UMC2018 のプログラム及び会場の様子などを会員向けに公開
2018年11月27日(火)	・平成30年9月28日(金)に開催した「Equinor 社との情報交換会」の日本側発表資料や様子を会員向けに公開
2018年12月7日(金)	・平成30年10月2日(火)に実施した地球深部探査船「ちきゅう」見学会の様子を会員向けに公開
2019年3月5日(火)	・平成31年2月21日(木)に実施した「第20回全体会合」の資料や様子を会員向けに公開

(2) 「RT メールニュース」の配信

今期も、国内外の海底鉱物資源開発関連ニュースやラウンドテーブルの活動に関する情報等をまとめ、月1回のペースで、Vol. 20 から Vol. 31 までの計 12 号、および 12 月 21 日に「『海洋エネルギー・鉱物資源開発計画(案)』に関する意見募集中」の号外を、下記のように、会員および関係者に配信した。配信先数：約 130 名。

年 月 日	主 な 記 事
2018年4月27日(金) Vol. 20	<p>《一般情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISA と COMRA(中国)、地域環境管理計画 WS を共催@青島 ・ Nautilus Minerals 社の活動状況 (ほぼ毎号掲載)、他計 6 件 <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/7(木)~6/13(水)、海底鉱物資源開発基礎講座の開催予告 ・ 5/28(月)、ノルウェーとの情報交換会の開催@神戸、他計 4 件
2018年5月29日(火) Vol. 21	<p>《一般情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月15日(火)、第3期海洋基本計画が閣議決定 ・ 早大等、レアアース泥の資源分布可視化と選択的回収技術確立と発表 他計 7 件 <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ RT レポート No. 4 「国際会議に見る深海底鉱物資源開発の動向(II)」 刊行、他計 4 件
2018年6月27日(水) Vol. 22	<p>《一般情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISA、深海底鉱物資源の開発に関する規則草案の改正版を公開 ・ Nautilus Minerals 社、新型海底掘削装置の水中稼働試験を開始、他計 8 件 <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <p>計 2 件</p>
2018年7月27日(金) Vol. 23	<p>《一般情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISA、地域環境管理計画(REMP)策定に関する WS を 6 月にポーランドで開催 ・ Nautilus Minerals 社、中国 Mawei 造船所、Solwaral 生産支援船の造船契約の解除を通知、他計 7 件 <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/6(金)平成 30 年度理事会・総会・全体会合・懇親会を開催、他計 3 件
2018年8月31日(金) Vol. 24	<p>《一般情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISA、地域環境管理計画(REMP)策定作業に関する概要説明会を COMRA と共催 ・ JOGMEC、コバルトリッチクラスト探査研修を実施 ・ JAMSTEC、ISA におけるオブザーバー資格が承認される、他計 7 件 <p>《ラウンドテーブル関係情報》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9/10(月)~13(木)、ノルウェーで UMC2018 視察および技術情報交換会を実施、他計 3 件

年 月 日	主 な 記 事
2018年9月28日(金) Vol. 25	《一般情報》 ・ ISA、深海底鉱物資源開発規則草案の改訂版の意見交換会を開催 ・ JAMSTEC、AUV2機同時運用による海底下構造調査に成功、他計8件 《ラウンドテーブル関係情報》 ・ 9/10(月)～13(木)、ノルウェーでUMC2018視察および技術情報交換会を実施 ・ 9/28(金)、Equinor社VPとの意見交換会を実施、他計4件
2018年10月30日(火) Vol. 26	《一般情報》 ・ ISA、BBNJ政府間会議において声明発表、サイドイベントも開催 @NY国連本部 ・ JAMSTEC、ちきゅうによる「南海トラフ地震発生帯掘削計画」を実施、他計7件 《ラウンドテーブル関係情報》 ・ 10/2(火)、「ちきゅう」見学会を開催、他計2件
2018年11月30日(金) Vol. 27	《一般情報》 ・ JOGMEC、海底熱水鉱床の鉱石から亜鉛地金の製造に成功 ・ JOGMEC、海底熱水鉱床開発に関する総合評価を実施、他計8件 《ラウンドテーブル関係情報》 ・ Asia-Pacific Deep Sea Mining Summit@シンガポールにRTから参加 他計2件
2018年12月11日(火) 号外	「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画（案）」に関する意見募集中
2018年12月26日(水) Vol. 28	《一般情報》 ・ ISA、深海底鉱物資源開発規則の草案について関係機関から41件の意見提出 ・ Ocean Infinity社、行方不明のアルゼンチン海軍潜水艦を発見、他計8件 《ラウンドテーブル関係情報》 1件
2019年1月31日(木) Vol. 29	《一般情報》 ・ JOGMEC、伊豆・小笠原海域青ヶ島沖に新たな海底熱水鉱床を確認 ・ JOGMEC、昨年公表の「海底熱水鉱床開発総合評価報告書」、1/23付けで修正版を公表、他計7件 《ラウンドテーブル関係情報》 2件
2019年3月1日(金) Vol. 30	《一般情報》 ・ 経産省、海洋エネルギー・鉱物資源開発計画を改定 ・ JAMSTECなど、海底堆積物に鉄マンガン酸化物を発見 ・ 川崎重工、深海底ターミナルの開発プロジェクトを受注、他計6件 《ラウンドテーブル関係情報》 ・ 2月21日(木)、第20回全体会合および交流会を開催、他計2件

年 月 日	主 な 記 事
2019年3月29日(金) Vol. 31	《一般情報》 ・自然環境保全法改正法律案が閣議決定、沖合の海底に海洋保護区を創設 ・ISA、第25回年次総会第1部 ISA理事会開催(2月25日～3月1日)、他計7件 《ラウンドテーブル関係情報》 1件

6. 海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等

(1) 国際会議などにおける情報収集

今期は、以下のような調査・研究活動を積極的に行った。

年 月 日	内 容
2018年5月27日(日) ～31日(木)	OTO' 18 (OCEANS' 18 MTS/IEEE Kobe / Techno-Ocean 2018) 参加視察 開催日：5.27(日)～5.31(木) 場 所：兵庫県神戸市 「ラウンドテーブルレポート No.5」にて視察報告
2018年6月10日(日) ～15日(金)	第28回 ISOPE (the International Society of Offshore and Polar Engineers) 年次大会(札幌) 参加視察 開催日：6.10(日)～6.15(金) 場 所：北海道札幌市 「ラウンドテーブルレポート No.5」にて視察報告
2018年9月10日(月) ～9月13日(木)	1) ノルウェーでの技術情報交換会 開催日：9.10(月) 場 所：ノルウェー科学技術大学(ノルウェー・トロンハイム) ノルウェー側参加者：NTNU、DNV GL社、Equior社、 RT側参加者：5名 2) UMC(Underwater Mining Conference)2018 参加視察 開催日：9.11(火)～13(木) 場 所：ノルウェー・ベルゲン 参加者：5名 上記2件とも「ラウンドテーブルレポート No.6」で報告予定
2018年11月28日(水) ～11月29日(木)	Asia-Pacific Deep Sea Mining Summit 2018 参加視察 開催日：11.28(水)～11.29(木) 場 所：シンガポール 「ラウンドテーブルレポート No.6」にて視察報告予定

(2) 報告書等の刊行

上記の調査・研究活動を踏まえて、以下のような報告書等を刊行した。本会の報告書は産業界に関しては、原則として《会員限定配布》としている。

年 月 日	内 容
2018年5月	「ラウンドテーブルレポート No. 4」の刊行 「国際会議に見る深海底鉱物資源開発の動向（Ⅱ） Asia-Pacific Deep Sea Mining Summit 2017（シガポール）参加報告」の刊行
2018年9月	「ラウンドテーブルレポート No. 5」の刊行 「Ⅰ．我が国の深海底鉱物資源政策の最新動向 -第3期海洋基本計画における深海底資源の取り扱い -第2期SIP海洋課題「革新的深海資源調査技術」の概要 Ⅱ．最近の国際会議における深海底鉱物資源関連の発表資料 -ノルウェー・日本 海底資源開発技術に係る情報交換会（神戸） -OCEANS' 18 MTS/IEEE Kobe / Techno-Ocean 2018（神戸） -ISOPE 2018（札幌）」の刊行
2019年6月 （予定）	「ラウンドテーブルレポート No. 6」の刊行 「国際会議に見る深海底鉱物資源開発の動向（Ⅲ） UMC 2018（ノルウェー）、Asia-Pacific Deep Sea Mining Summit 2018（シガポール）参加報告」の刊行

7. その他

今期は、ホームページのトップ画面および会員専用ページ上部に常時アンケートを掲示し、会員からの意見を随時募集できるようにした。

年 月 日	内 容
2018年4月1日（日） ～10月26日（金）	平成30年度「今後の活動に関する会員アンケート」の実施 配布：郵送・会員専用Webサイトでの公開 回収：e-mail、Fax等 内容：以下のとおり ・今後の全体会合のテーマ等活動について ・今後の見学先について ・調査・研究活動のトピックについて ・ラウンドテーブル10周年記念事業について ・その他

8. 決算等

2018年度は、これまでの活動に加えて、新たに人材育成・研修事業の実施、ノルウェーとの情報交流、国際会議への調査員派遣（OTO, ISOPE, UMC, DSMS）等、事業活動の幅を積極的に広げた。そのため、当初予算の支出予定額には若干届かなかったものの、収入を上回る支出という予算計画の考え方を反映した決算となった。

2019年度についても、事業活動の一層の充実に努めることとし、そのために、旧年度と同様の考え方にもとづき、単年度収入を上回る支出とする予算計画とする。その収支差額は余裕のある繰越金から充当することとする。

Ⅱ. 決算報告（案）

1. 平成30年度収支計算書（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	備 考
収入の部				
1 会費収入	10,550,000	10,095,000	455,000	
(1)会費	10,550,000	10,095,000	455,000	※
(2)特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1)事業収入	0	0	0	
3 雑収入	36,000	9,182	26,818	
(1)受取利息	1,000	182	818	
(2)雑収入	35,000	9,000	26,000	主催行事参加費収入等
当期収入合計（A）	10,586,000	10,104,182	481,818	
支出の部				
1 会議費	3,000,000	2,611,536	388,464	会場借用料等
2 調査研究費	4,500,000	3,680,917	819,083	謝金、作業費、委託費、見学会費、臨時用役費、10周年記念事業等新規事業着手費、人材育成研修費等
3 印刷費	1,500,000	1,353,823	146,177	小冊子、調査報告書等
4 通信費	150,000	71,298	78,702	
5 事務局業務委託費	3,500,000	3,500,000	0	
6 雑費	50,000	12,312	37,688	
当期支出合計（B）	12,700,000	11,229,886	1,470,114	
当期収支差額(C)=(A)-(B)	△ 2,114,000	△ 1,125,704	△ 988,296	
前期繰越収支差額（D）	18,445,722	18,445,722	0	
次期繰越収支差額(E)=(C)+(D)	16,331,722	17,320,018	△ 988,296	

※	年会費	口数
正会員	200,000	41
団体会員	200,000	7
独法・国研会員	100,000	4
個人会員	5,000	19

参考

1. 平成 29 年度収支計算書（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）

（単位：円）

科 目	当初予算額	決 算 額	差 異	備 考
収入の部				
1 会費収入	11,000,000	10,695,000	305,000	
(1)会費	11,000,000	10,695,000	305,000	※
(2)特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1)事業収入	0	0	0	
3 雑収入	31,000	35,194	△ 4,194	
(1)受取利息	1,000	194	806	
(2)雑収入	30,000	35,000	△ 5,000	主催行事参加費等
当期収入合計（A）	11,031,000	10,730,194	300,806	
支出の部				
1 会議費	3,300,000	2,641,138	658,862	
2 調査研究費	5,500,000	2,371,128	3,128,872	事務費用大幅減
3 印刷費	1,000,000	1,893,493	△ 893,493	
4 通信費	100,000	145,492	△ 45,492	
5 事務局業務費	3,000,000	3,000,000	0	
6 雑費	50,000	22,693	27,307	
当期支出合計（B）	12,950,000	10,073,944	2,876,056	
当期収支差額(C)=(A)-(B)	△ 1,919,000	656,250	△ 2,575,250	
前期繰越収支差額（D）	17,789,472	17,789,472	0	
次期繰越収支差額(E)=(C)+(D)	15,870,472	18,445,722	△ 2,575,250	

2. 貸借対照表（平成31年3月31日現在）

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 資 産 の 部			
1. 流 動 資 産			
現金預金	17,716,918	19,519,782	△ 1,802,864
未 収 金	0	0	0
流 動 資 産 合 計	17,716,918	19,519,782	△ 1,802,864
2. 固 定 資 産			
(1)特定資産			
特 定 資 産 合 計	0	0	0
(2)その他固定資産			
そ の 他 固 定 資 産 合 計	0	0	0
固 定 資 産 合 計	0	0	0
資 産 合 計	17,716,918	19,519,782	△ 1,802,864
II. 負 債 の 部			
1. 流 動 負 債			
未 払 金	396,900	1,074,060	△ 677,160
そ の 他	0	0	0
流 動 負 債 合 計	396,900	1,074,060	△ 677,160
2. 固 定 負 債			
固 定 負 債 合 計	0	0	0
負 債 合 計	396,900	1,074,060	△ 677,160
III. 正 味 財 産 の 部			
1. 指 定 正 味 財 産	0	0	0
2. 一 般 正 味 財 産	17,320,018	18,445,722	△ 1,125,704
正 味 財 産 合 計	17,320,018	18,445,722	△ 1,125,704
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	17,716,918	19,519,782	△ 1,802,864

3. 正味財産増減計算書（平成30年4月1日から平成31年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
会 費	10,095,000	10,695,000	△ 600,000
特 別 会 費	0	0	0
事 業 収 入	0	0	0
雑 収 入	9,182	35,194	△ 26,012
経 常 収 益 計	10,104,182	10,730,194	△ 626,012
(2) 経常費用			
事 業 費	11,229,886	10,073,944	1,155,942
会議費支出	2,611,536	2,641,138	△ 29,602
調査研究費支出	3,680,917	2,371,128	1,309,789
印刷費支出	1,353,823	1,893,493	△ 539,670
通信費支出	71,298	145,492	△ 74,194
事務局業務委託費支出	3,500,000	3,000,000	500,000
雑費支出	12,312	22,693	△ 10,381
経 常 費 用 計	11,229,886	10,073,944	1,155,942
当 期 経 常 増 減 額	△ 1,125,704	656,250	△ 1,781,954
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経 常 外 収 益 計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経 常 外 費 用 計	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 1,125,704	656,250	△ 1,781,954
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	18,445,722	17,789,472	656,250
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	17,320,018	18,445,722	△ 1,125,704
II. 正味財産期末残高	17,320,018	18,445,722	△ 1,125,704


監 査 報 告 書


海洋資源・産業ラウンドテーブル
会長 佃 和 夫 殿

平成 30 年度の事業報告および決算報告について監査したところ、いずれも適正かつ妥当であることを確認しました。

2019 年 5 月 24 日

海洋資源・産業ラウンドテーブル

監事 中田喜三郎 

監事 田畑日出男 

議案 2 号：2019 年度事業計画および収支予算（案）の承認に関する件

I. 2019 年度事業計画（案）

本年度の活動については、引き続き、設立の趣旨である「幅広い視点からの知見にもとづく多角的な検討に基づいた取り組み」を行うことを基本とし、海洋産業界と鉱業界ならびに周辺業界との間の交流を一層深める。

昨年度を振り返ると、直近では今年 2 月に「海洋エネルギー・鉱物資源開発計画」が改定され、今後 5 年間程度の海底鉱物資源開発の計画の方向性が示された。また、昨年には、JOGMEC がこれまでの海底熱水鉱床開発に関する総合評価を実施・公表した。さらに 5 年間に及ぶ第 1 期 SIP が多大なる研究成果を挙げて終了するとともに、新たな 5 年計画の第 2 期 SIP が下半期から既にスタートするなど、我が国の深海底資源の開発に向けた取り組みの節目の年度であったと言える。

また、国外に目を向けると、国際海底機構では、深海底資源の開発に関する規則の策定に取り組んでいるところである。

当 RT としては、これら国内外の最新技術や政策動向について、引き続き全体会合、特別研究会、見学会等の開催、および情報発信事業を通じて、会員の情報共有を図り、我が国の深海底資源の発展に資する有益な交流の場の提供に努めるとともに、国際会議等への調査員派遣や人材育成・研修事業にも取り組み、一層の事業活動の充実を図る。

なお、本年度は当 RT 設立 10 周年を迎えることから、記念事業を実施する。

1. 理事会、総会、幹事会の開催

理事会を 1 回以上、総会を 1 回、幹事会を必要に応じた回数、開催する。

2. 全体会合等の開催

全体会合を複数回開催する。その他、適宜、特別研究会等を開催し、海底鉱物資源開発を牽引する国内外の団体等について学び、交流する機会を設ける。

3. 人材育成・研修事業の実施

昨年度に続き、深海底鉱物資源の利活用促進に資する人材を育成することを目的に、一般財団法人国際資源開発研修センター（JMEC）との共催により「海底鉱物資源開発基礎講座」を開催する。昨年度は理事会・総会開催時には既に終了という実施時期であったが、今年度は 10 月開催を予定。

（参考）昨年度の研修内容

- ・ 受講者：12 名
- ・ 座学：2018 年 6 月 7 日（木）、8 日（金）、11 日（月）
JMEC 会議室（東京都港区赤坂 1-9-13 三会堂ビル 4 階）
- ・ 見学：6 月 12 日（火）東邦亜鉛株式会社小浜製錬所（福島県）
6 月 13 日（水）海洋調査船「白嶺」（千葉県）

4. 見学会等の実施

海底鉱物資源の開発の参考になると考えられる、船舶、研究施設・設備、鉱山関係等を対象に、例年同様、数回の見学会を実施する。

5. 情報受発信事業の実施

会員限定の情報・資料の提供・共有、さらに外部機関の関連情報の収集、および会員内外への情報発信等の充実・強化に取り組む。

- ・ 活動内容の記録や調査研究成果等の報告書（RT レポート等）、有用資料等の発行・配布
- ・ 会員保有技術の情報共有・提供
- ・ ホームページ／会員専用ページのリニューアルおよび更新・充実
- ・ 「RT メールニュース」の配信（年度内12回程度）
- ・ その他、関連する情報受発信活動

6. 海洋資源の開発および関連産業の振興に関する調査・研究等の実施

多角的な立場・視点から情報及び意見交換、さらに必要な調査・研究活動を精力的に行い、一層の充実を図る。

- ・ 海外における海底鉱物資源開発に関連する法整備、各種技術動向、環境保全対策等の把握
- ・ 海外における海底鉱物資源関連の学会、国際会議等への調査員派遣、情報収集
下記の例のほか、適宜、調査員等の派遣による情報収集を行う。

例：UMC-2019：48th Underwater Mining Conference

（中国・海南島にて9月22～27日開催）

Asia-Pacific Deep Sea Mining Summit

（シンガポールにて12月4～5日開催）

- ・ 上記を含む海外における海底鉱物資源関連の学会、国際会議等へのRT会員の積極的な参加を促すために、参加登録費等の支援制度を新設
- ・ 国際機関等による有用資料やその他資料の翻訳・編集・出版・配布
例：ISAが現在策定している「深海底における鉱物資源の開発に関する規則の草案」“Draft regulations on exploitation of mineral resources in the Area”の翻訳
- ・ その他、会員の意向に基づく有用情報のとりまとめ

7. 10周年記念事業の実施

海洋資源・産業RT創立10周年を迎えるにあたり、記念事業を実施する。

（記念事業の例）

- ・ 10周年記念式典の企画・準備（2019年3/4半期に記念パーティとして開催予定）
- ・ 「海洋資源・産業ラウンドテーブル10年史」の企画・編集（沿革、活動実績、設立当初の関係者からの寄稿文等々を収録して、会員内外に配布）

8. その他、RTの目的を達成するために必要な事業の実施

その他本会の趣旨に沿って、その他の事業活動に取り組む。

- ・ 事業活動に関する会員の意向調査（アンケート）の実施
- ・ 調査研究委託事業等の事業拡大

9. 事務局体制の充実

上記の各種業務を円滑に実施するにあたり、今年度より常勤スタッフを増員することで事務局体制の充実を図る。

10. 予算方針

昨年度に引き続き、本年度も事業活動の一層の充実に努めることから、単年度収入を上回る支出を予定するという考え方の予算計画とし、収支の差額は繰越金によって充当する。今年度の予算案で、年度初めに単年度収入プラスアルファの繰越金というレベルになる。これが、次年度以降も会の安定した運営の適正レベルと考えられる。

II. 2019年度収支予算 (案)

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	2019年度 予算案	2018年度		備 考
		予算額	決算額	
収入の部				
1 会費収入	10,530,000	10,550,000	10,095,000	
(1)会費	10,530,000	10,550,000	10,095,000	正・団体会員:20万円×50口, 独法会員:10万円×4口, 個人会員:5千円×26口
(2)特別会費	0	0	0	
2 事業収入	0	0	0	
(1)事業収入	0	0	0	
3 雑収入	36,000	36,000	9,182	
(1)受取利息	1,000	1,000	182	
(2)雑収入	35,000	35,000	9,000	主催行事参加費収入等
当期収入計(A)	10,566,000	10,586,000	10,104,182	
支出の部				
1 会議費	3,000,000	3,000,000	2,611,536	会場借用料等
2 調査研究費	5,000,000	4,500,000	3,680,917	・謝金、作業費、委託費、見学会費、 10周年記念事業等新規事業実施 費、人材育成研修費、学会参加等 支援費、HPリニューアル費等
3 印刷費	1,600,000	1,500,000	1,353,823	RTレポート、小冊子、調査報告 書、10周年史等
4 通信費	100,000	150,000	71,298	
5 事務局業務委託費	4,500,000	3,500,000	3,500,000	
6 雑費	20,000	50,000	12,312	振込手続の電子化による手数料削減
当期支出計(B)	14,220,000	12,700,000	11,229,886	
当期収支差額 (C)=(A)-(B)	△ 3,654,000	△ 2,114,000	△ 1,125,704	
前期繰越収支差額(D)	17,320,018	18,445,722	18,445,722	
次期繰越収支差額 (E)=(C)+(D)	13,666,018	16,331,722	17,320,018	

議案3号：理事の交代に関する件

下記のとおり、理事の交代の申し出を承認する。

(順不同・敬称略)

新任

日本鉱業協会
小野直樹

石油鉱業連盟
井上尚久

日本郵船株式会社
田中康夫

公益社団法人 日本船舶海洋工学会
三島慎次郎

退任

日本鉱業協会
関口明

石油鉱業連盟
深澤光

日本郵船株式会社
長澤仁志

公益社団法人 日本船舶海洋工学会
柏木正

以上

海洋資源・産業ラウンドテーブル
2019年度第1回通常理事会／通常総会

議案4号：新規入会会員の承認に関する件

以下の新規入会申込みを、承認する。

〔正会員〕

(順不同)

若築建設株式会社

・・・ 1会員

〔個人会員〕

(順不同・敬称略)

久留島 守広 (東洋大学教授)

・・・ 1会員

以上

若築建設株式会社

・代表取締役社長 五百歳 良平

・創立 1890年5月23日

・所在地

・従業員数 (2018年4月1日現在)

〒153-0064

707人

東京都目黒区下目黒2丁目23番18号

HP <https://www.wakachiku.co.jp/index.html>

・事業内容

国内・国外建設工事、海洋開発、地域・都市開発、環境整備・保全およびその他建設に関する事業、建設コンサルティング、マネジメント事業、不動産事業

海洋資源・産業ラウンドテーブル
2019年度第1回通常理事会／通常総会

議案5号：創立10周年記念事業（案）に関する件

1. 創立10周年記念パーティの開催

○開催日時：2019年12月18日（水）

○内 容：・パーティに先立ち、全体会合を開催
・来賓、設立に関わった関係者等からのご挨拶と交流懇親会
・「海洋資源・産業ラウンドテーブル10年史」の配布（下記参照）

○参加者：RT会員、設立関係者、関係省庁等

2. 「海洋資源・産業ラウンドテーブル10年史」の刊行

○趣 旨：会員各位にRTの設立背景および存在意義を改めて理解いただくとともに、今後のより積極的な参画を促す資料とする。

○配布対象：RT会員、関係省庁

○コンテンツ：・海洋資源・産業ラウンドテーブルの設立経緯
・設立当初の関係者からの寄稿文
・これまでの活動実績
・海底鉱物資源開発の歩み（鉱種別、国内外別等）
・上記内容を含む年表 等

○編集スケジュール：・寄稿文の依頼・回収（7月～9月）
・海底鉱物資源開発の歩み原稿案（7月～9月）
・幹事会メンバーによる編集（9～10月）
・刊行（記念パーティ開催時）

《参考》

海洋資源・産業ラウンドテーブル 設立発起人名簿 (2009. 12. 16 当時)

(順不同)

＜設立発起人共同代表 5＞

岡田 昌徳 日本鉱業協会会長
河野 博文 (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構理事長
武井 俊文 (社)海洋産業研究会会長
三村 明夫 総合資源エネルギー調査会会長
元山 登雄 日本経団連海洋開発推進委員会委員長

＜設立発起人・企業／団体 24＞

岡田 昌徳 日鉱金属(株)代表取締役社長
太田 英美 新日鉄エンジニアリング(株)代表取締役副社長
山脇 康 日本郵船(株)代表取締役副社長
平 朝彦 (独)海洋研究開発機構理事
讚良 紀彦 石油鉱業連盟大陸棚委員会委員長
高原 弘榮 深海資源開発(株)取締役社長
小野 武彦 (社)日本土木工業協会海洋開発委員長
村重 芳雄 (社)日本埋立浚渫協会会長／五洋建設(株)代表取締役社長
釜 和明 (株)I H I 代表取締役社長
清水 穂高 (株)川崎造船プロジェクト本部事業企画部長
俣野 実 大成建設(株)理事副本部長
明石 恵介 みらい建設工業(株)代表取締役副社長技術営業本部長
赤井 憲彦 東洋建設(株)代表取締役社長
山岸 一也 J F E エンジニアリング(株)常務執行役員鋼構造本部長
田畑日出男 いであ(株)代表取締役会長
立川 道彦 (株)鶴見精機代表取締役
小松 正博 日本サルヴェージ(株)常務取締役
鈴木 敏夫 日本海洋(株)代表取締役
林 英一郎 深田サルヴェージ建設(株)理事・営業部長
清水建設(株)
東亜建設工業(株)
三井造船(株)
(社)日本作業船協会

＜設立発起人・個人 12＞

浦辺 徹郎 資源地質学会会長
白山 義久 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所所長・教授
古賀 衛 西南学院大学法学部教授
角 洋一 日本船舶海洋工学会会長
山富 二郎 資源・素材学会会長
山崎 哲生 大阪府立大学大学院教授
大木 達也 (独)産業技術総合研究所研究グループ長
中田喜三郎 東海大学海洋学部教授
徳山 英一 東京大学海洋研究所教授
福島 朋彦 東京大学特任准教授
橋本 惇 長崎大学水産学部教授